

## 石の流れと構想

基本理論：構想の目的は、形勢を有利に導く戦いの流れを作ることにある



越田 正常 | Koshida Masatsune

(有)日本囲碁ソフト代表

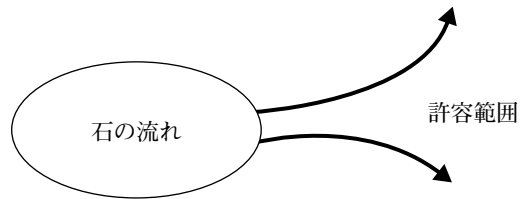
■大阪府出身。信州大学卒。囲碁講師（アマ6段）。囲碁関西マンガ「岡目八目」の構成企画、学習ソフト「プロの碁」シリーズ、「死活アタック」、「布石定石AI」、対局ソフト「本因坊」、「囲碁初段」、「ミニ碁」、「すぐ碁が打てる」の企画・開発に携わる。インターネット上で、リアル対局場、ボード対局場を運営。著書に『パソコン&インターネット囲碁入門』（新紀元社）、『碁の方程式「基礎編」』（竜王文庫）。E-mail：igosoft@sun-inet.or.jp

### 1. 石の流れとは

#### (1) 戦いでの石の流れ

囲碁の全局的な戦いにおける石の流れは、台風の進路とよく似ています（図1）。台風の場合には偏西風や高気圧によって、その進路が制限されますが、囲碁の場合には、布石での石の配置、石の強弱関係、予想争点などによって、着手効率としての制約が生まれ、必然的な石の進行方向が決まることとなります。

図1 全局的な石の流れ



台風の場合のように、2つの矢印の変化許容範囲内で手順は進行する。この範囲を変えるには、新たな戦いによる外的な力が必要となる

なると、石の流れが確定しやすくなるため、形勢逆転がより困難になる傾向があります。

#### (2) 石の流れの進行で形勢が傾く

勝敗の形勢は、この石の流れの進行によって有利不利に傾くこととなります。特に、完全に生きていない大石があると、相手の手に対して反発できない状態になるため、自分側にとって石の流れが大変不利な条件となります。また必然の流れが強くなることから、進路としての許容範囲が制限され、確実性が増すこととなります。このように、形勢が悪く

#### (3) 戦いが始まると流れは中断できない

戦いが始まると、石の流れは一段落の状態になるまで中断することはありません。図2は、十段戦のプロ同士の棋譜ですが、一時的に流れが中断しています。実戦の進行は、次が黒番で図3の黒1と打ちましたが、局後の検討では、図4のような進行の方がよかったという考え方があります。地合表示させてみ

ると、形勢の優劣の違いがわかります。(図5、6)。このように、次の戦いが始まる場所によって、石の流れは大きく変化し、勝敗の形勢に大きな影響を与えます。また、一度戦いが始まると、10手以上も必然の流れで進行することがわかります(図3、4)。そして黑白とも「生きの状態」が確定したとき、戦いが一時中断した状態になります。

図2 一時的な中断図

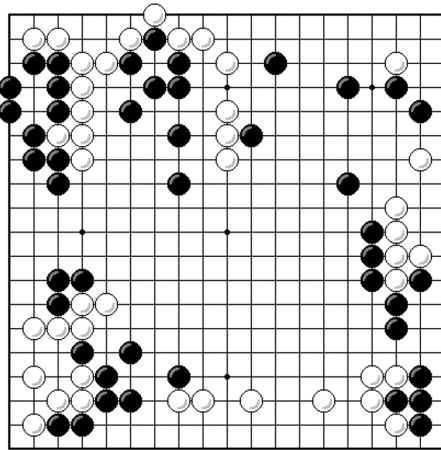


図3 実戦の経過図

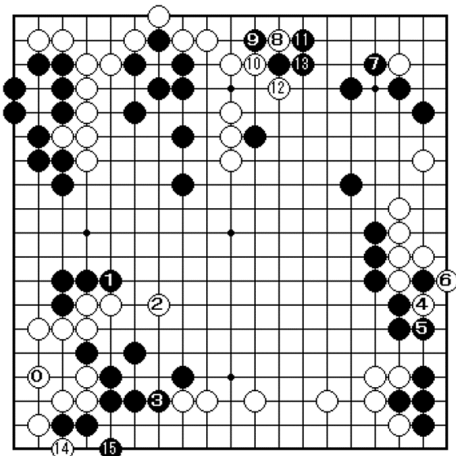


図4 局後の検討図

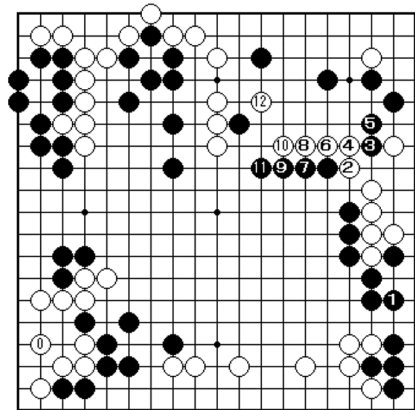
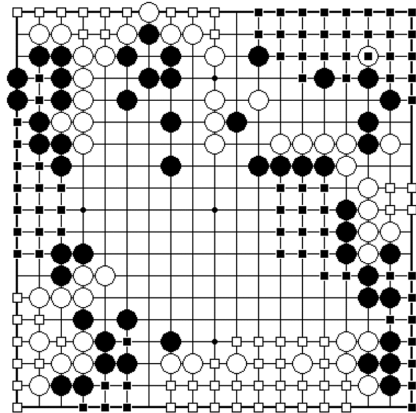
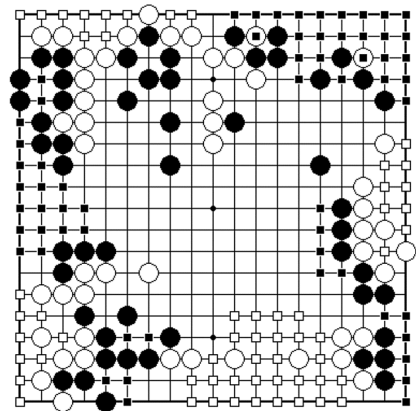


図5 図4の勢力図



黒：78、白：52（アゲハマ黒：3、白0）

図6 図3の勢力図



黒：66、白：58（アゲハマ黒：3、白1）